

汚染のことも、アスファルトのことも、何か共通したものがあろうですね。

◆助かったケヤキ

荒木 私も街路樹のすぐ根元まで舗装してあるのを見ると、親切過剰というか、なんと無神経なやり方だろうと思えますね。

木の根っこのアスファルトをはぎ取っ

どんな心掛けで、どう進めるか

て木が助かった例がひとつあります。熊本商大の前に大きなケヤキが道の左右にあります。水が吸うスペースが非常に狭かったために、片方が枯れかかっていた。それで、前の学長だった齋藤さんが心配して市に相談して広げたところ、生きかえって元気になっておりますね。

藤坂 ゴミ収集のために、ゴミを一カ所に集めますね。すると、そのゴミが野

犬や野ネズミの餌になるといって、困ったことになっていきます。一種のゴミ公害でしょうけれども、一担ゴミを置いたら、集積車が来るまで誰も責任を持たない。こんな小さいことにも、ひとりひとりが神経を行き届かせないと、街もきれいにならないし、暮らしも本当に豊かにはならないのではないのでしょうか。

◆豊かに大らかに

くにしても、自分の家の前だけで、隣の方に紙クズが散つたら草が生えたら、もう絶対干渉しませんね。どうかすると隣へはわきやっておる(笑)。そういうマイホームというか、自分だけよければいい。自分だけ住みよければ、あとは構わないということで、広がりがないわけですね。これはやっぱり、そういう家庭教育というか、そういうものがいままであつたんでしょうかね。この点だけは、昔からそうなんですよ。

知事 非常に有益な話を伺いました。

例えば、道路の構造、あるいはそれと関連して街路樹の問題、こういったことは、県庁なり、市役所なり、建設省なりが配慮すれば、ご指摘になったようなことは、ある程度改善される余地のあることですから、皆さんのご意見をできるだけ生かす方向で取り組んでいきたいと思えます。

ただ、そういったことももちろん必要ですけれども、冒頭に申しあげましたように、非常に多岐にわたって、いろいろな要素を含んだ運動であるわけです。どのような心掛けで、どういうふうに推進していったらいいのか、まあ非常に難しい問題だし、役所として気長に取り組めというご指摘はそのとおりですけれども

。その辺をもう少しお話しいただきたいと思えます。

◆第一は教育

黒田 それはね、自分でいうのもおかしいのですが、一番大事なのは教育だろうと思います。本当の意味の公德心ですよ。それが非常に大きいと思います。いま、熊本はきれいにかきたないかと言われるけど、みんなの公德心で大部分がきれいになるんです。川や道やどこそこにごミを捨てる。あれが非常に大きな障害ですね。ですから大学も教育しなきゃいかんけれども、小中学校から町をよこさない、きれいにするというのを完全にやらせることですね。

知事 私は、田舎の小学校を出たんですけれども、われわれの子どもの頃は、学校から帰ると、夏なんか家の前に水をまいて、ホウキではかされたもんです。いまは、そういうことをやっていると、うのは、ほとんどないような気がしますね。

黒田 そして、汚れていると市は何をしとるか(笑)。自分たちでちらしておいて、かたづけするのは人がやってくれるだろうという(笑)。それが一番根本だと私は思いますね。

荒木 大体日本人というのは、神州清潔の民なんて詩もある位に、非常にきれいな面があるわけです。自分の家だけはきれいにしている。しかし、一歩外へ出た道路については構わない。外をは

藤坂 私は、草花が大変好きなものですから、よく図鑑や写真集をひろげると、すけれども、あるとき、ロンドン郊外の個人の家の写真で、とつてもうつつりするようなものを見たんです。それは、庭に全然扉がなく、通行人もともに楽しめるようになっていってます。そういう美しいものはわれも人も共に楽しむという豊かな大らかな気持ちは、やはり教えるというんじゃないかと、小さいときから大人がやっていると見たら、自然とそれが習慣になっていく、そういうものじゃないかと思えます。

私たちが、非常に閉鎖的に美しさを楽しむということだったら、子どもも自然とそれをまねしてしまいます。その辺を考えた方がいいですね。この

(二十六頁へ続く)

写真は熊本市の白川べりにある“鶴田公園”

みんなで郷土をきれいに